

情報・システム研究機構経営協議会（令和2年度第2回）議事要旨

日 時：令和2年7月17日（金）～令和2年7月27日（月）

形 式：メール審議

送付先：安宅和人委員、○五十嵐道子委員、○國井秀子委員、○篠崎一雄委員、○須江雅彦委員、○長谷川真理子委員、○古谷研委員、○安浦寛人委員、○藤井良一委員（議長）、○津田敏隆委員、○喜連川優委員、○椿広計委員、○坂口広志委員、○中村卓司委員、○花岡文雄委員
（○は回答があった委員）

議 事：

【審議事項】

（1）令和元年度決算について

資料1-1～1-5に基づき各委員に意見照会したところ、表決数以上の可決意見を得たため、財務諸表を文部科学省に提出することが承認された。

（2）4年目終了時評価の達成状況について

資料2-1, 2-2に基づき各委員に意見照会したところ、表決数以上の可決意見を得たため、4年目終了時評価の達成状況報告書を大学改革支援・学位授与機構に提出することが承認された。

（3）平成31（令和元）事業年度及び第3期中期目標期間における業績の事績に関する報告書について

資料3-1～3-3に基づき各委員に意見照会したところ、表決数以上の可決意見を得たため、文部科学省に提出することが承認された。

（4）令和3（2021）年度概算要求（コロナ禍を踏まえた取組）について

資料4-1, 4-2に基づき各委員に意見照会したところ、表決数以上の可決意見を得たため、要求事項及び要求概要を機構長に一任することが承認された。

《意見概要》

- ・概算要求においては、令和2年度のコロナ禍における非常事態において、国立情報学研究所を中心に機構が果たした役割をしっかりと明示すべきである。国立情報学研究所の情報システム運用とそれに伴うサイバーシンポジウムなどの大学間連携活動がなければ、我が国の大半の大学において遠隔授業による教育の継続および在宅勤務における業務の継続ができなかったことを文部科学省および財務省にしっかりと認識させることが重要である。機構が大学利用共同機関法人として、国家的に極めて大きな役割を果たした実績

であるとする。

以上

《配付資料》

- 【資料1-1】 審議のポイント〔決算報告〕
- 【資料1-2】 令和元事業年度 財務諸表（簡易版）
- 【資料1-3】 令和元年度事業年度 財務諸表等
- 【資料1-4】 独立監査人の監査報告書
- 【資料1-5】 監査報告（監事）
- 【資料2-1】 審議のポイント〔達成状況報告書〕
- 【資料2-2】 中期目標の達成状況報告書
- 【資料3-1】 審議のポイント〔業務実績報告書〕
- 【資料3-2】 業務実績報告説明資料
- 【資料3-3】 平成31年度及び4年目終了時業務実績報告書
- 【資料4-1】 審議のポイント〔概算要求〕
- 【資料4-2】 令和3年度国立大学法人運営費交付金の重点支援等に係る概算要求の方向性について